

北九州芦屋層群（漸新統）産ギンザメ類の歯板化石

岡崎 美彦

北九州市立自然史博物館
北九州市八幡東区西本町3丁目

A Fossil Dental Plate of Chimaeroid (Pisces: Holocephali)
from the Oligocene Ashiya Group, Kyushu, Japan

Yoshihiko OKAZAKI

Kitakyushu Museum of Natural History
Nishihonmachi 3, Yahatahigashiku,
Kitakyushu City, 805 Japan
(Received September 17, 1990)

Abstract An occurrence of a fossil of *Edaphodon* (chimaeroid) is reported from the Oligocene Ashiya Group as the first record of the family from Japan. The material is an almost complete left lower dental plate.

はじめに

1990年7月15日に北九州自然史友の会化石研究部会の採集見学会が行われた際、会員の宮原大海は1個の脊椎動物化石を採集した。この化石は岡崎によって調査され、日本ではその産出がまだ知られていないギンザメ類の歯板であることがわかったので報告する。

標本を採集され、快く北九州市立自然史博物館に寄贈された芦屋町の宮原大海氏に感謝する。この研究について、国立科学博物館の上野輝彌博士にご指導戴いた。北九州自然史友の会の諸氏、北九州市立自然史博物館の学芸員、特に文献の入手に努力いただいた伊澤雅子博士、他の皆さんに感謝の意を表する。

標本の記載

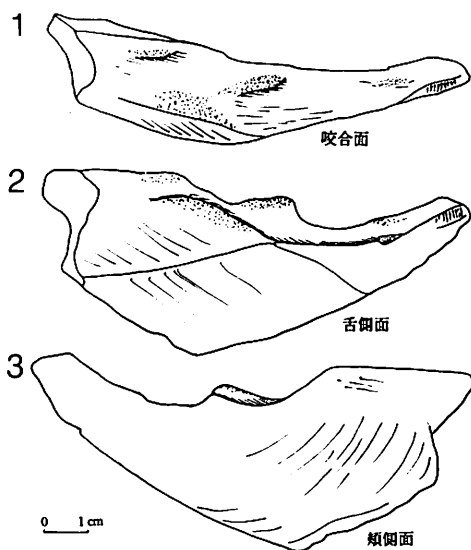
Edaphodon sp.

部 位 左下顎歯板 KMNH VP 000,014
産出場所 北九州市若松区有毛 (130°41'47"E, 33°54'45"N)
産出層 芦屋層群坂水層 (Oligocene)
採集者 宮原大海 (北九州自然史友の会化石研究部会)

標本は1本の無根歯で、カーブした成長軸を持ち、中央のくぼんだ頬側面と、稜のある舌側面、平らなゆ合面、それにいくつかのふくらみを持った咬合面で構成される。歯根側は一部破損している。歯板の成長方向を見ると断面形はほぼ同一であるが、やや先に向かって小さくなる。近心側前方は長く突き出している。

頬側面の上縁と下縁は、鋭い稜で舌側面と区切られている。成長軸に沿った中央のくぼみが明瞭で、その両側には滑らかな隆起がある。全体として緻密であるがエナメル質は無い。滑らかな表面に、成長線が1～3ミリ程度の周期で見られる。舌側面は、やや鋭い稜で上下に分割される。上半部はゆるくふくらんでいて咬合面と連続的である。下半部は上半部の近くで強くくぼんでいて他ではほぼ平らである。舌側面全体に頬側面よりも少し不明瞭な成長線が見られる。ゆ合面は三角形で平らであり、他の面とは明瞭に区別される。咬合面には4つのふくらみ (tritons) と2つのくぼみがある。ふくらみのうち、2つは頬側に位置する。いずれも前後に細長く、先方に向かってふくらみを増している。頬側中央のものは、その後方が舌側のふくらみと近接している。舌側のふくらみは大きくて舌側上半部との境界にある。先端のふくらみは小さい。これらのふくらみの表面は多孔質に見える。

先端のゆ合面側に櫛状の構造が見られる。背腹方向の長さ約4ミリの構造が並行している。



Left lower dental plate of *Edaphodon* sp. KMNH VP 000,014

collected by Omi MIYAHARA

above: dorsal view.

middle: lingual view.

below: buccal view.

Tritons are indicated by dots.

計測値 (mm)

最大長 (mould を含む)	102.3
腹側縁の長さ	75.2
最大幅	49.6
咬合面最大長	65
咬合面幅	19

ゆ合面長	52.2
ゆ合面背腹高	11.0

考 察

ギンザメ類の歯は、歯板を形成して破砕機能を持つように進化した。現生のギンザメ科などや、エダフォドン科では、下顎に1対、上顎に2対の歯板があって、その咬合面はいくつかの *tritons* と呼ばれるふくらみがある。（歯板自体は、いくつかの歯がゆ合して形成されたものといわれるので、このふくらみに対して咬頭という用語を用いるのは適当でない。）

ここで報告する標本は、近心側で前に長く突き出した形態であることや、ふくらみの配置などから判断して、エダフォドン属（エダフォドン科）魚類の左下顎歯板である。この属は、多くの種がヨーロッパ・アメリカの白亜紀から中新世の地層から化石が報告されている。ウラル地方の下部漸新統の化石が時代的、地理的に最も近いが、今回太平洋域から化石が産出したので、むしろ汎大洋性の分布をしていたと考えたほうがよいのだろう。

現在のギンザメ類は、日本近海では100メートルよりも深い所に生息している。しかし、今回の標本は科のレベルで現生種と異なることや、多くの化石が欧米で報告されていることなどを考えると、現生種よりも浅い海域に生息していたものだろう。芦屋層群の他の軟骨魚類、無脊椎動物化石群集は数十メートルの水深を示している。

日本ではこれまでにギンザメ類の化石の産出は報告されていない。

ま と め

1. 北九州市の芦屋層群（漸新統）からギンザメ類の *Edaphodon*（エダフォドン科）の化石が産出した。
2. 標本の部位は、左下顎の歯板で、ほぼ完全に保存されている。
3. この産出はエダフォドン科やギンザメ科などでは日本初のものである。

参 考 文 献

- OBRUCHEV, D. V. (ed.) 1967 Fundamentals of Palaeontology. vol. 11. Agnatha, Pisces. (translated) pp. 383-387.
- 上野輝彌, 簀本美孝, 久家直之 1984 芦屋層群の魚類化石, 1. 北九州市藍島・貝島産出の後期漸新世板鰐魚類相. 北九州市立自然史博物館研究報告 5: 135-142, pls. 1-5.
- WOODWARD, S. 1982 On some teeth of new chimaeroid fishes from the Oxford and Kimmeridge clays of England. *Ann. Mag. Nat. Hist.*, 6. ser. 10: 13-16, pl. 3.
- ZITTEL, K. A. 1932 Text-book of Palaeontology. (translated) vol. 2: 96-98.

岡 崎 美 彦

北九州芦屋層群（漸新統）産ギンザメ類の歯板化石

Yoshihiko OKAZAKI

A Fossil Dental Plate of Chimaeroid (Pisces: Holocephali)
from the Oligocene Ashiya Group, Kyushu

図 版 1

Plate 1

第 1 図 版 説 明

Explanation of Plate 1

Left lower dental plate of *Edaphodon* sp. (natural size)

KMNH VP 000, 014

collected by Omi MIYAHARA

fig. 1: dorsal view.

fig. 2: lingual view.

fig. 3: buccal view.

